

『2017 第63回 日本母親大会 in 岩手』報告

8月19日、20日に29年ぶりに日本母親大会が岩手県盛岡市を中心に開催されました。参加者は、各地から約5200名が参加しました。

「生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」をメインテーマに掲げ、1日目の分科会では、用意されたどの会場も想定された人数よりも多く参加していました。分科会では、熱い議論が繰り広げられ、「生命を守ること・・・私たちが今できることは何か?」ということについて考えました。

19日(1日目)は、22の分科会と、3つの特別企画、被災地訪問等が実施されました。

分科会は、若い世代の企画「行列できるしゃべくりカフェ」子どもをテーマにした教育の問題、暮らし・権利をテーマにした問題、女性と人権のテーマ、平和と民主主義のテーマについて、各分科会にパネリスト、助言者を配置し、話題提供、課題となることを掘り下げて考え、参加者全員で積極的に「どうしたら・・・」話し合いました。どの会場も熱気にあふれていました。

.....

➤ 13分科会「青い地球を守ろうー地球温暖化、いまわたしたちにできること」報告

パネラーの気候ネットワーク東京事務所長の桜井貴子さんから「地球温暖化、いま、私たちには何が求められているか」ということで話題提供がありました。先ず、京都議定書からパリ協定に至る内容、地球温暖化について、データ、映像で、地球全体、特に北極圏の温度変化について示されました。Co2削減を、脱炭素社会を目指していくために直面している課題、逆行する日本のエネルギー政策、国際状況等も踏まえた日本の置かれている状況について、わかりやすく説明された後、参加者から多くの質問、意見がありました。桜井さんは多くの質問を一つ一つ丁寧にわかりやく応えてくださいました。次に助言者である元岩手大学教授 佐藤信安さんから「ごみ処理は、環境・資源・いのちの問題」ということで、日本のごみ処理政策の背景、盛岡市のクリーンセンターを事例にダイオキシン類の排出量のデータ、現状としてのごみ処理の多くの課題についてお話をされました。日常生活から出るごみについても、考えることが多いことも示唆されました。



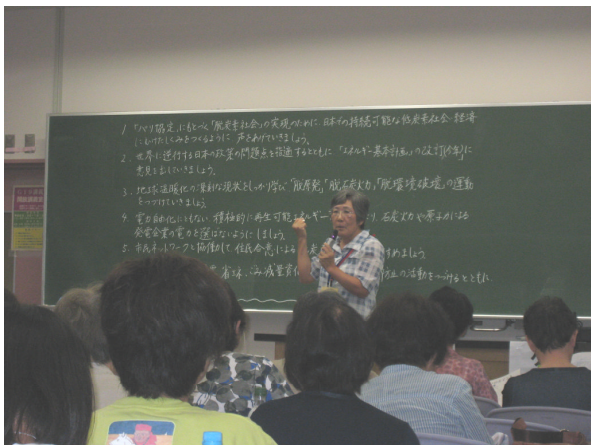
最後に、本日のまとめとして、参加者全員で今できること等を考えました。

- 1、パリ協定にもとづく「脱炭素社会」の実現のために、日本のCo2削減目標を高め、持続可能な低炭素社会、

経済に向けた仕組みを作るように働きかけましょう

- 2、 世界に逆行する日本の政策に問題提起するとともに、エネルギー基本計画の改訂に再生可能なエネルギーを要請し、エネルギーシフトと実現する政治家を選んでいきましょう。
- 3、 温暖化の深刻な現状をしっかりと学び「脱原発」、「脱石炭火力」「脱環境破壊運動」を広げていきましょう。
- 4、 電力自由化にともない積極的な可能エネルギーに切りかえられるように電力会社に求めましょう。
- 5、 市民ネットワークと協働して、住民合意による脱炭素地域づくりを進めましょう。
- 6、 誰でもどこでもできる省エネ、ごみ減量化など、地球温暖化防止の活動を続けるとともに、国や自治体の責任をあきらかにさせましょう。

.....



パレードでは、分科会会場（岩手大学）から盛岡駅まで約2キロを、雨の中「9条守れ」「憲法知らない総理はいらない」と唱和しました。

2日（2日目）

全大会は盛岡タカヤアリーナを会場として開催されました。

「春日流鹿踊」、「さんさ踊り」と岩手の素晴らしい文化に触れ、安田菜津紀さんのフォトジャーナリスとして仕事を通して、シリア、カンボジアの現状、取材の様子、3.11のご自身のご家族の軌跡の話でした。夕日の中の奇跡の一本松の写真が印象に残りました。

熱い5200人のエール交換、今日の運動と大会決議、大会アピール

と移り終了しました。

次年度は高知です。

